項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局　昭和38年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数187件　契約面積7,289ha 植栽面積　スギ 1,977ha　ヒノキ 2,979ha　マツ 1,689ha　カラマツ 15ha　その他 2ha
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保安林外は不明であるものの、現在なお5万3千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は県外在住者で全国平均なみであるものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ高く、さらに増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	斐伊川水系三成ダム、仁淀川水系面河第三ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち約3%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち約1%が存在している。 水源の森百選の「八川水源の森」に水源林造成事業地の一部が含まれている。

事業の造林状況

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：98%）（注1）

樹種	平均樹高	平均調高直径	平均1ha当材積	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	18.6m	25.2cm	380㎥	6%	1%	7%
ヒノキ	14.0m	21.1cm	256㎥	9%	1%	10%
マツ	15.2m	22.7cm	213㎥	3%	1%	4%
カラマツ	12.5m	20.3cm	119㎥		15%	15%
計				6%	1%	7%

平均樹高及び平均調高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は7%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が58%と大半を占める。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が85%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：2%）

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	2%	98%				100%
ヒノキ	11%	87%		2%	2%	100%
マツ						
カラマツ						
その他		100%				100%
計	9%	89%		2%	2%	100%

樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで2%、樹種計で2%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.6倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然生樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで造木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

(注1)森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
(注2)森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
(注3)森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
(注4)植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の3等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

	留意事項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、管理等によって、広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 なお、前回の期中評価以降に平成16年台風被害等により36haの改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局　昭和43年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数71件　契約面積1,733ha 植栽面積　スギ 359ha　ヒノキ 1,091ha　マツ 219ha
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保安林外は不明であるものの、現在なお5万3千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合にについては、減少傾向にある。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は県外在住者で全国平均なみであるものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下降傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ高く、さらに増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	吉野川水系三縄ダム、仁淀川水系柳谷ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち31%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち44%が存在している。

事業の進捗状況

森林整備済地（注1）

生育状況（面積比率：98%）（注1）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	残存本数（ha当たり）	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	18.9m	25.9cm	407㎥	6%	1%	7%
ヒノキ	14.4m	21.9cm	272㎥	7%		7%
マツ	14.5m	21.7cm	210㎥			
				6%		6%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は6%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が58%と大半を占める。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が85%と大半を占める。

森林調査完了地（注2）

生育状況（面積比率：2%）

樹種	良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		76%	24%		24%	100%
ヒノキ	22%	78%				100%
マツ						
カラマツ						
その他						
計	21%	78%	1%		1%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで24%、樹種計で1%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における部分別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き造林作業の計画的な実施を要望している。

(注1)森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
(注2)森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
(注3)森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
(注4)植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、豆言等によって、広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 なお、前回の期中評価以降に病虫害により8haの改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局　昭和48年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数167件　　契約面積5,030ha 植栽面積　スギ　827ha　ヒノキ　3,006ha　マツ　553ha
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保安林外は不明であるものの、現在なお5万3千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は県外在住者で全国平均なみであるものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の6割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下降傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ高く、さらに増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貴重度、関連公共施設の整備状況	江の川水系高暮ダム、阿武川水系河武川ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち39%が存在している。 南島水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち44%が存在している。

事業の進捗状況

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：96%）（注1）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当たり本数	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	17.8m	21.6cm	345㎡	19%		19%
ヒノキ	12.2m	16.9cm	226㎡	3%		3%
マツ	14.8m	21.3cm	225㎡			
計				5%		5%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因

広葉樹林化した林分は6%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が58%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：4%）

樹種	良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		95%	5%		5%	100%
ヒノキ		96%	4%		4%	100%
マツ						
カラマツ						
その他						
計		95%	5%		5%	100%

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然生樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで5%、ヒノキで4%、樹種計で5%である。

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の意向を踏まえながら造材及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 　また、雪害等によって、広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 　なお、前回の期中評価以降に平成16年台風被害により22haの改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局　昭和53年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数106件　契約面積3,323ha 植栽面積　スギ 706ha　ヒノキ 1,895ha　マツ 7ha
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保安林外は不明であるものの、現在なお5万3千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は県外在住者で全国平均なみであるものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林開発公団等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ高く、さらに増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	江の川水系浜原ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち38%が存在している。 備後水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち36%が存在している。

事業の進捗状況

森林調査済地（注1）

生育状況（面積比率：96%）（注3）

樹種	平均樹高	平均胸高直径	本数1ha当たり	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ（注4）	不良 計
スギ	14.0m	18.1cm	248㎡	8%	2%	10%
ヒノキ	11.1m	15.4cm	191㎡	3%	1%	4%
マツ	15.9m	24.2cm	245㎡			
計				5%	1%	6%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分

広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は6%である。
広葉樹林化した林分の原因：雪害が68%と大半を占める。
植栽木の生育が遅れている林分の原因：雪害が85%と大半を占める。

森林調査未済地（注2）

生育状況（面積比率：4%）

樹種	良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ		100%				100%
ヒノキ		96%		4%	4%	100%
マツ						
カラマツ						
その他						
計		97%		3%	3%	100%

樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで4%、樹種計で3%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における樹種別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の侵生天然性樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

(注1)森林調査済地は、概ねⅣ齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
(注2)森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
(注3)森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
(注4)植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、雪害等によって、広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 なお、前回の期中評価以降に平成16年台風被害により9haの改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

事業評価実施地区名	中国四国整備局　昭和58年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数55件　　契約面積1,253ha 植栽面積　スギ　297ha　ヒノキ　644ha
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保安林外は不明であるものの、現在なお5万3千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は県外在住者で全国平均なみであるものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林開発公団等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ高く、さらに増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	江の川水系八戸ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち16%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち39%が存在している。
事業の進捗状況　生育状況	樹種：スギ　生育状況：良 15%、普通 84%、不良 広葉樹化 0%、生育遅れ 0%、小計 0%、計 100% 樹種：ヒノキ　生育状況：良 13%、普通 85%、不良 広葉樹化 0%、生育遅れ 2%、小計 2%、計 100% 樹種：マツ　生育状況：良 0%、普通 0%、不良 広葉樹化 0%、生育遅れ 0%、小計 0%、計 0% 樹種：カラマツ　生育状況：良 0%、普通 0%、不良 広葉樹化 0%、生育遅れ 0%、小計 0%、計 0% 樹種：その他　生育状況：良 0%、普通 0%、不良 広葉樹化 0%、生育遅れ 0%、小計 0%、計 0% 樹種：　生育状況：良 0%、普通 0%、不良 広葉樹化 0%、生育遅れ 0%、小計 0%、計 0% 樹種：計　生育状況：良 14%、普通 85%、不良 広葉樹化 0%、生育遅れ 1%、小計 1%、計 100% （注）生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が期待生立本数（森林整備局における樹種別期待生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が期待生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分 （a）植栽木の1ha当たり成立本数が期待生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が期待生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が期待生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の被圧天然性樹木が過半を占める林分）	樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで2%、樹種計で1%である。
事業コスト縮減の可能性	今後の除伐に当たっては、道測に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト縮減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

	留　意　事　項
来中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・　前回の期中評価以降に平成16年台風被害により４haの改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局　昭和63年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数94件　契約面積1,745ha 植栽面積　スギ 212ha　ヒノキ 1,187ha　その他 16ha
森林・木材情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保安林外は不明であるものの、現在なお5万3千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は県外在住者で全国平均なみであるものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ高く、さらに増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	那賀川水系小見野々ダム、仁淀川水系朝谷ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち28%が存在している。 笛吹水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち44%が存在している。
事業の進捗状況　生育状況	

樹種	生育状況 良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	10%	89%		1%	1%	100%
ヒノキ	10%	88%		2%	2%	100%
マツ						
カラマツ						
その他		100%				100%
計	10%	88%		2%	2%	100%

（注）生育状況の区分
良好：植栽木の1haあたり成立本数が標準生立本数（森林国営保険における新植造林標準生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1haあたり成立本数が標準生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.6倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が標準生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.6倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が標準生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.6倍以上あるもの。（c）植栽木の1haあたり成立本数が標準生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.6倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の侵入実態性樹木が過半を占める林分）

樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで2%、樹種計で2%である。

事業コスト縮減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト縮減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び残出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・　前回の期中評価以降に平成16年台風被害等により11haの改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局　平成5年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数127件　　契約面積1,565ha 植栽面積　スギ 234ha　ヒノキ 1,104ha　その他 38ha
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保安林外は不明であるものの、現在なお5万3千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は県外在住者で全国平均なみであるものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下降傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林整地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ高く、さらに増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	江野川水系大宮ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち24%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち40%が存在している。 水源の森百選の「高山水源の森」に水源林造成事業地の一部が含まれている。

事業の進捗状況

生育状況

樹種	良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	15%	82%		3%	3%	100%
ヒノキ	9%	88%		3%	3%	100%
マツ						
カラマツ						
その他		100%				100%
計	10%	87%		3%	3%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで3%、ヒノキで3%、樹種計で3%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1haあたり成立本数が標準生立本数（森林施業標準における斜面別標準生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1haあたり成立本数が標準生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）に生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1haあたり成立本数が標準生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1haあたり成立本数が標準生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1haあたり成立本数が標準生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の被圧天然性樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト縮減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き道開作業の計画的な実施を要望している。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・　初回の期中評価以降に干害により３㌶の改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	中国四国整備局　平成10年度契約地
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数152件　　契約面積2,169ha 植栽面積　スギ　198ha　ヒノキ　1,508ha　その他　84ha
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	中国四国整備局管内の都道府県における民有林のうち、未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態である。そのうち、保安林外は不明であるものの、現在なお5万3千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 中国四国整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、また、そのうち約4割は県外在住者で全国平均なみであるものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 中国四国整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ高く、さらに増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	江の川水系温井ダム、斐伊川水系三成ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち22%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち38%が存在している。
事業の進捗状況　生育状況	

生育状況

樹種	良	普通	不良 広葉樹化	不良 生育遅れ	不良 小計	計
スギ	12%	83%		5%	6%	100%
ヒノキ	5%	93%		2%	2%	100%
マツ						
カラマツ						
その他	17%	83%				100%
計	7%	91%		2%	2%	100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで5%、ヒノキで2%、対種計で2%である。

（注）生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が標準生立本数（森林国営保険における樹種別標準生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周囲の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が標準生立本数以上で、かつ、樹高が周囲の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分
（a）植栽木の1ha当たり成立本数が標準生立本数以上であるが、樹高が周囲の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が標準生立本数未満であるが、樹高が周囲の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が標準生立本数未満で、かつ、樹高が周囲の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の侵生天然性樹木が過半を占める林分）

事業コスト縮減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト縮減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び採出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

	留　意　事　項
期中評価実施地区の林分についての対応	・　当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・　前回の期中評価以降に干害により３haの改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・　過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。